



市民ホールの基本計画策定の議論がスタートした建設検討委員会のワーキンググループ

市民ホール
建設検討委

ワーキンググループ始動

基本計画策定へ3部会

苦小牧

老朽化が進む苦小牧市民会館に加え、文化会館など4公共施設を統合した複合施設「苦小牧市民ホール(仮称)」の基本計画を策定する建設検討委員会(委員長・森傑北大大学院工学研究院教授)が4日、苦小牧市役所で開かれた。委員会の後、3部会によるワーキンググループの議論も行われ、2力年で策定する基本計画の議論が本格的にスタートした。(佐藤重伸)

同委員会は「親近感と愛着を持てる憩いのプラザ」のメインテーマを含む、建設基本構想の策定に携わった。基本的な機能として市民が主体となったプログラムの企画や運営をサポートする組織の構築、市民の活動の場を広げる施設などが盛り込まれている。

約20人が出席した同委員会では基本構想についてメインテーマや内容について確認。今後の議論の進め方として、1年目はソフト面として施設活用事業、2年目は施設の規模や動線計画などについて議論することを決めた。

同委員会後に開かれたワ

ーキンググループは「活動」「鑑賞」「展示・窓口」の3部会に分かれて議論を始めた。市民や市職員、オブザーバー役の北大生ら7人ほどの各部会では自己紹介をした後、それぞれが思い描く市民ホール像などを発表していた。部会は月1回のペースで開催し同委員会の計画づくりに反映させる。

今後は建設場所も大きなポイントとなってくる。森教授は「本年度の後半の早い時期に建設候補地を示してほしい」と述べ、議論の進ちよくに合わせて候補地を示すように要望。議会議論などでは「苦小牧東中学校に併設される苦小牧東小学校の跡地」「旧駅前のが才跡地」「総合体育館の南側」など、さまざまな意見が出されている。

同委員会ではワーキンググループの議論の進ちよくを見極めながら建設候補地を示し、施設の規模も詰めることにしている。早ければ2021年度(平成33年度)の着工を目指している。

市民ホール建設検討委

基本計画策定へ始動

苫小牧市民ホール建設検討委員会(森傑委員長)は4日、市役所で本年度新たに設置された作業部会の初会合を開いた。この日は検討委の本年度最初の会合も開かれ、市が示した基本構



市民ホール建設に向けて作業部会で意見交換するメンバー

想を元に議論しながら、来年度末に基本計画をまとめる方針だ。

基本構想は市民ホールの理念や基本的機能を示すもので、同検討委での議論を踏まえて、市が3月に策定。検討委の冒頭、森委員長は構想のメインテーマを「親近感と愛着を持てる憩いのプラザ(公共の広場)」と設定したことや、本年度は施設の活用計画などのソフト面、来年度は施設の規模や動線などのハード面を協議することを確認した。

委員から施設の建設場所について質問が出ると、市側は「年度内には候補地を示したい」と説明。森委員長は「本年度の後半のできるだけ早い時期までに、お

およその候補地を挙げてほしい」と市側に注文した。

検討委に続いて開かれた作業部会は、鑑賞、活動、展示・窓口に分かれ、公募などで選ばれた市民や市職員ら約20人が意見交換。メンバーからは「いるだけで楽しいと感じる場所に人は集まるのでは」などの声が出た。同部会は今後、12月までに会合を計5回開き、検討委と連携して進めていく。

(田鍋里奈)